

11月3日

週刊

二号外

編集発行人 佐々木和雄

一部 2 円

録料 1部20回 400円

反戦運動

社説

東京都千代田区神田三崎
東町うーー7-6高松ビル内
代表 03(264)2961
大阪支局 大阪市福島区聖洲
1-16 北村ビル内
電話 06(458)6597
京都市左京区下鴨
宮崎町 12-8-29
075(701)0025
名古屋支局 052(732)3555

安保第二波、沖縄・訪米阻止、全國總結集

11

7 首相官邸攻撃を

共産主義者同盟

全国の戦闘的労働者・学生諸君!

10・21 国際反戦ゼネストは全学連・
反戦二五〇〇名の血みどろの防衛庁突
入闘争を頂点にして、新宿・大阪・御
堂筋等、全国到るところで厚い機動隊
の壁をぶち破り、蹴散し、六〇年安保
最高揚時を上廻る巨大な“七〇年安保
粉碎第一波闘争”として貫徹された。

昨年の二度の羽田闘争以降の佐世保、
王子、成田、ASPAC、新宿闘争・北
海道・長沼から沖縄に至る全国數十ヶ
所で闘い抜かれている米軍・自衛隊基
地撤去闘争。中大学費闘争に打ち続き、
東大、日大等五十数学園で闘い抜け
ている学園闘争、國労・労働を軸に、
官公労・民間で闘い抜けている反合
理闘争等、これら連続し相連関す
る闘いは、10・21闘争を契機に、“七
〇年安保粉碎”に集中され、巨大な爆
發を遂げたのである。しかもこの闘いは、
日本での闘いが、国際反戦闘争の最先端を担つてゐることを、全世界のプロレタリアート・人
民にあらためて指示するものとなり、イギリスの三万の反戦闘争を引きだし、ベトナム人民の非妥協的闘いの前進を、

促すものとなつたのである。
政府・支配者階級は、この闘いの前
進に恐怖し、機動隊の力量の限界を思
い知らされながらも、「騒乱罪」を發
動し、自衛隊の治安出動を真剣に考慮
せざるをえない程に追い込まれた。

全国の戦闘的労働者・学生諸君!

われわれは、まだ、七〇年安保粉碎
の緒戦を開つただけである。次の闘い
が目前に差し迫つてゐる。11・7 沖縄
闘争である。

11・7 沖縄闘争を、“七〇年安保粉
碎第二波闘争”にしようではないか。

現在、沖縄では、11・10の投票日に
向けて、主席選挙が自民党・西銘、野
党統一・屋良候補との間で「激しく」
闘われている。(同時に立法院選挙も)

しかし、美濃部当選で思い知らされ

てゐるようすに、そして何よりも「民主
主義の先進国」アメリカ、イギリス、
フランス等の階級闘争が指示示してい
るようすに、「選挙」という擬制の対決

では一齊の解決が不能であり、実力で
権力を打ち倒し、われわれの権力を創
り出す闘いこそが、勝利への道である

ことを確認しなければならない。

11・7 沖縄闘争は、11・10選挙のカン
パニアでないことは勿論、「返せ沖縄」
||「沖縄奪還」の「日の丸運動」でも
なければ、沖縄と本土人民解放の不可
分性を見抜けえない「沖縄解放」論の
闘いではなく、まさに、米軍基地撤
去、米軍政打倒、日本帝国主義の侵略
前戦基地化阻止を鮮明にうちだした
日米反革命同盟粉碎・安保粉碎の熾烈
な階級闘争として闘わねばならない

11・7 沖縄闘争は、11・10選挙のカン
パニアでないことは勿論、「返せ沖縄」
||「沖縄奪還」の「日の丸運動」でも
なければ、沖縄と本土人民解放の不可
分性を見抜けえない「沖縄解放」論の
闘いではなく、まさに、米軍基地撤
去、米軍政打倒、日本帝国主義の侵略
前戦基地化阻止を鮮明にうちだした
日米反革命同盟粉碎・安保粉碎の熾烈
な階級闘争として闘わねばならない

11・7 沖縄闘争は、11・10選挙のカン
パニアでないことは勿論、「返せ沖縄」
||「沖縄奪還」の「日の丸運動」でも
なければ、沖縄と本土人民解放の不可
分性を見抜けえない「沖縄解放」論の
闘いではなく、まさに、米軍基地撤
去、米軍政打倒、日本帝国主義の侵略
前戦基地化阻止を鮮明にうちだした
日米反革命同盟粉碎・安保粉碎の熾烈
な階級闘争として闘わねばならない

11月5日午後6時 中央労政(水道橋
駅下車)

11月6日午後6時 中大学館(お茶水
駅下車)

反戦活動者集会 全学連統決起集会
11月7日 全学連・中大午後2時
反戦・日比谷野音6時